

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成20年8月13日

施設名	高知青少年の家	所管課名	教育委員会生涯学習課
-----	---------	------	------------

1施設の概要

指定管理者名	(財)高知県青年会館
指定期間	平成18年4月1日～21年3月31日
施設所在地	吾川郡いの町天王北1-14
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の許可に関する事 ・施設及び設備の維持管理に関する事 ・青少年の活動が安全かつ円滑に行われるための支援に関する事 ・主催事業を計画し、実施すること <p><平成19年度主催事業> 親子サイエンス教室 親子さわやかコンサート 親子おりがみ教室 親子木工教室 親子陶芸教室 磁器への絵付け ～ポーセラーツ～ 手漉き和紙とそば打ち体験教室 プリザーブド・フラワーアレンジメント 大人パソコン初心者教室 パソコンで遊ぼう</p>
施設内容	研修及び会議を計画する各種機関・団体・学校・グループ・サークル・企業等に施設を提供する 利用開始日:昭和63年6月1日 施設面積:1230.39㎡ 建築物:鉄筋コンクリート2階建 施設概要: 大集会室200名×1 研修室45名×3 会議室20名×1 和室20名×1 和室15名×1 視聴覚室50名×1 談話室(ホール)
職員体制	所長1名(青少年体育館館長を兼務) 事務長1名(青少年体育館館長補佐を兼務) 事務員1名 指導員2名 計5名

2収支の状況

		18年度(決算)	19年度(決算)	20年度(予算)
収入	県支出金	18,820,013	18,957,739	19,006,000
	事業費収入	67,600	95,100	77,000
	使用料	668,170	768,370	768,370
	収入計 (a)	19,555,783	19,821,209	19,851,370
支出	事業費	427,181	505,278	505,000
	管理運営費	8,112,819	7,951,576	8,149,000
	人件費	9,429,789	9,670,605	10,022,000
	消費税	917,824	925,380	407,000
	支出計 (b)	18,887,613	19,052,839	19,083,000

3利用実績

(1)利用団体数

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
団体数	774	819	935	1,011	1,034	961	922

(2)利用者数

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平均
人数	17,211	19,111	20,409	20,165	21,117	20,300	19,719

4業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <p>○伊野南地区安全安心学校づくり推進委員会に参加し、地域の学校や町内会との連携に力を入れている。</p> <p>○伊野南小学校を対象に主催事業「パソコンで遊ぼう」(週2回水・金曜日)を開催しており、毎回定員を超えるほど人気がある。しかし、パソコンの台数分しか受け入れできないので残念である(19年度は延べ906名が参加)。</p> <p>このように、地域の子どもたちに放課後の居場所として、また、けがをした時の応急処置やトイレ休憩、待ち合わせなど身近な場所として利用されている。</p> <p>○マンネリ化しないように毎年見直しを行いながら、親子で参加できるものづくりなどの体験事業を多く実施している。(平成19年度親子交流事業は新規3事業を含む8事業、参加者は親子を合わせて404名)。</p> <p>(昨年度に引き続いての取り組み)</p> <p>地元小学生を対象に4年前から取り組んでいる主催事業「パソコンで遊ぼう」が、子どもの居場所として定着している。本年度も「のびのびパソコン作品展」で21名が入選した。年々成果が上がっており学校や保護者から高い評価を受けている。</p>
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <p>○新規利用者には、施設や器具の使用方法を十分に説明し、また交通の手段や食事の相談にも丁寧に対応するように心掛けている。</p> <p>(昨年度からの課題への対応)</p> <p>職員の勤務ローテーションや予算に制限があることから、職員の資質・指導力の向上を図るための研修に参加させることができなかった。その分、窓口対応や服務規律などを職員に徹底し利用者へのサービス向上に努めている。</p>

③施設の運営について	<p>施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。 ○日常の業務や主催事業は職員の役割分担にとらわれず、お互いが声をかけ合い連携しながら業務にあたっている。</p> <p>(今後の課題) ○電気料金節減の目標設定に当初取り組む予定であったが、できなかったため平成20年度に取り組む必要がある。 ○主催事業にボランティアとして参加している大学生や高校生にイベント用の保険を掛けていない。大学の場合は、大学の規則に則った所定の手続きにより大学に認められている団体であれば、その活動中や移動中に起きた傷害事故は保険の対象となるが、大学に認められていない団体の場合には保険の対象にならない。行き帰りや活動中のけがの心配があるので、団体の登録状況の確認を行い、必要に応じて保険に加入する必要がある。 ○緊急時の電話連絡網は作成しているが、緊急時の対応マニュアルは作成していないので、今後作成する必要がある。特に不審者への対応、夜間1人で勤務する場合の対応などは重要と考える。</p>
④利用実績	<p>○平成18年度は利用者数、団体数共に増加であったが、平成19年度は利用団体数は73団体減少、利用者数も817人減少となった。特に青少年(中学校・高等学校・大学)の利用者が減り、企業研修等の利用が増加している。</p> <p>平成18年度利用者数 青少年8,338人 その他12,779人 平成19年度利用者数 青少年7,000人 その他13,300人</p>
⑤収支の状況	<p>○利用者数は減少したが、使用料収入は100千円の増収となった。これは、企業研修などの利用が増加したことが大きな理由と考えられる。(使用料参考 大集会室:全日利用5,020円、研修室:全日利用1,150円) また、管理代行料については、平成18年度より支出額が増となった。これは、職員の入れ替わりによる人件費の増額と、必要な修繕を実施したことが原因であり、19年度は当初予算額をほぼ全額支出した。</p> <p>平成18年度予算額 19,029,000円 支出残額 208,987円 平成19年度予算額 18,966,000円 支出残額 8,261円</p>
総合評価	<p>だいたい事業計画のとおり管理運営されており、特に主催事業について工夫や努力していることは評価が高い。また、地域とのかかわりが深く子どもの居場所としても良く機能している。</p> <p>しかし、青少年の利用者数が減少している原因が分析できていない。利用者を拡大していくためには、ニーズの把握や、減少の理由を分析することが重要である。</p> <p>また、危機管理マニュアルの作成、電気料金削減の目標設定ができていないので、平成20年度に取り組む必要がある。</p> <p style="text-align: center;">B</p>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの